

全日本合唱コンクールの実施に関するアンケート(中学校・高等学校部門)

【趣旨・目的】

コンクールは合唱連盟の基幹をなす事業の一つですが、現在の形になってからほぼ10年になろうとしています。見直しをして欲しいとの声が多く寄せられるようになり、先ず「大学職場一般部門」についてのアンケートを支部宛に行ない、現在、問題点を整理し検討を始めています。

コロナ問題もあり、中学校・高等学校部門についても調査が必要と、今回は連盟加盟の中学校・高等学校の指導者に答えてもらう方法でアンケートを実施、かなりの回答を得ました。以下は回答をまとめたものです。

「大学職場一般」とは異なる多くの課題があり、共有していただければありがたく、配布いたします。

コンクール委員長・現担当副理事長：齊田好男

【調査対象・方法等】

A/期間 2022年2月8日～3月31日
 B/対象 合唱連盟加盟の中学校・高等学校の指導者
 C/方法 Google Formを使用したアンケート

【調査結果詳細】

A/回答者属性等

◎有効回答数 413 件

◎県連内訳

県連	回答数
福島県合唱連盟	49
埼玉県合唱連盟	25
栃木県合唱連盟	22
兵庫県合唱連盟	19
岩手県合唱連盟	18
岐阜県合唱連盟	17
千葉県合唱連盟	16
東京都合唱連盟	16
大阪府合唱連盟	15
香川県合唱連盟	15
札幌合唱連盟	14
大分県合唱連盟	13
愛知県合唱連盟	12
群馬県合唱連盟	11
神奈川県合唱連盟	10
山口県合唱連盟	10
山梨県合唱連盟	9
新潟県合唱連盟	8

県連	回答数
三重県合唱連盟	8
島根県合唱連盟	8
青森県合唱連盟	7
山形県合唱連盟	7
奈良県合唱連盟	7
広島県合唱連盟	7
秋田県合唱連盟	6
和歌山県合唱連盟	6
佐賀県合唱連盟	6
富山県合唱連盟	5
福井県合唱連盟	5
旭川合唱連盟	4
釧路合唱連盟	4
京都府合唱連盟	4
高知県合唱連盟	4
宮崎県合唱連盟	4
鹿児島県合唱連盟	4
函館合唱連盟	3

県連	回答数
鳥取県合唱連盟	3
岡山県合唱連盟	3
長崎県合唱連盟	3
北見合唱連盟	2
茨城県合唱連盟	2
徳島県合唱連盟	2
室蘭合唱連盟	0
小樽合唱連盟	0
帯広合唱連盟	0
宮城県合唱連盟	0
静岡県合唱連盟	0
長野県合唱連盟	0
石川県合唱連盟	0
滋賀県合唱連盟	0
愛媛県合唱連盟	0
福岡県合唱連盟	0
熊本県合唱連盟	0
沖縄県合唱連盟	0

◎回答者属性

属性	回答数
学校部活動の顧問(学校教諭)	403
学校部活動の外部講師	8
時間講師	1
学校部活動の部長	1

◎出演部門

部門	回答数
中学校部門	156
高等学校部門	195
中学校部門と高等学校部門	17
出演していない	45

◎アンケート回答【中学校部門】

6.【中学校部門】編成区分についてのお考えをご記入ください。

※回答対象：中学校部門出演団体

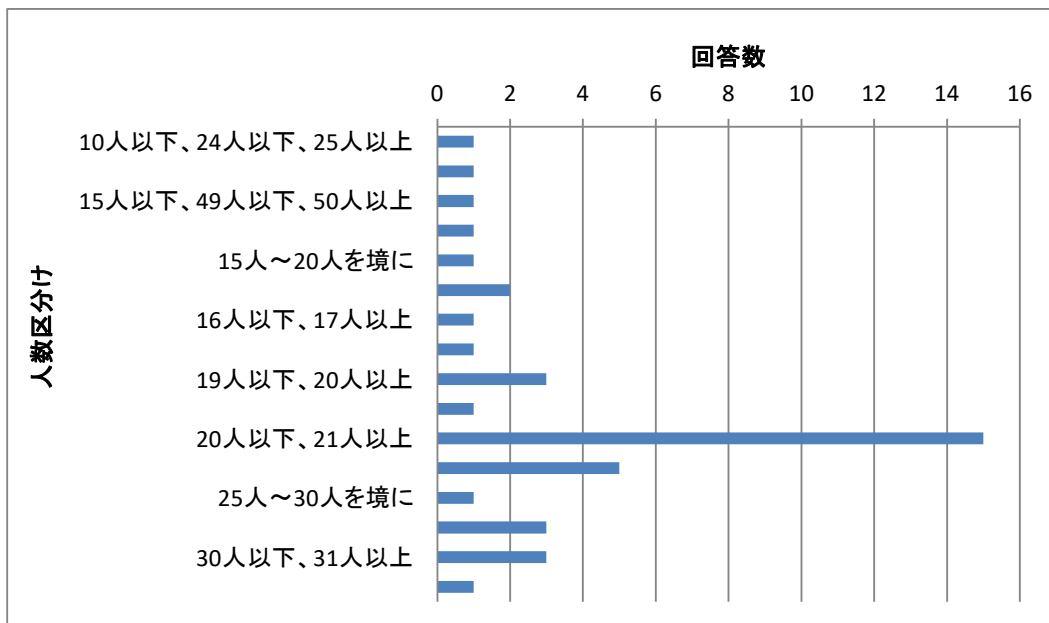
	回答数
現行のままでよい(声部による区分)	124
人数による編成区分とする	46
その他	3

その他

- ・区分しない
- ・声部と人数で4区分にする

6-1.【中学校部門】具体的な人数をご記入ください

※回答対象：アンケート6「人数による編成区分とする」の回答者



7.【中学校部門】演奏時間についてお考えをご記入ください。

※回答対象：中学校部門出演団体

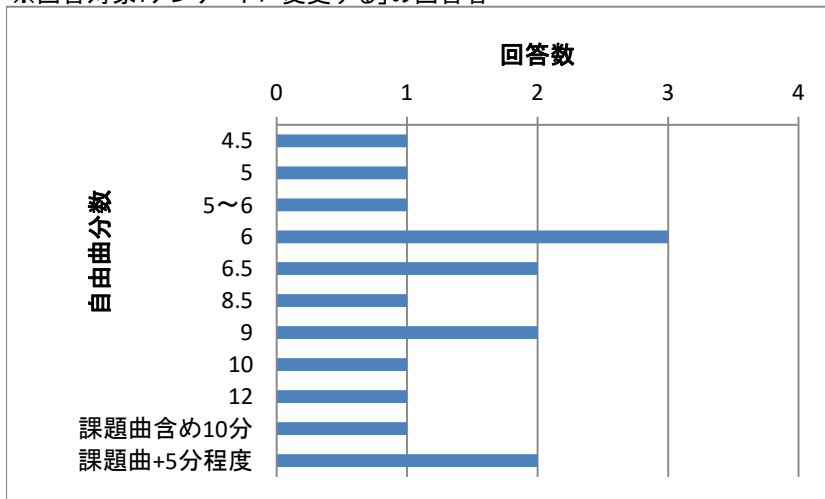
	回答数
現行のままでよい(自由曲のみ8分)	154
変更する	17
その他	1

その他

- ・課題曲を課す場合、自由曲の時間は短くても良い

7-1.【中学校部門】具体的な演奏時間をご記入ください。

※回答対象: アンケート7「変更する」の回答者



8.【中学校部門】課題曲について

※回答対象: 中学校部門出演団体

	回答数
現行のままでよい(課題曲設定無し)	160
設定する	13
その他	0

8-1.【中学校部門】どのようなものがよいか、可能であれば具体的にご記入ください

※回答対象: アンケート8「設定する」の回答者

- ・中学生にふさわしい新曲
- ・音程・ハーモニー・譜面の解釈など、団の基礎的な力を問うもので、かつ芸術的な価値が高い割にコンクールでは取り上げられにくいもの。アカペラのほうが取り組める団体は多いと思う(ふだんの練習はピアノを弾ける人がいない団も多いので)。外国語の得意な団体と日本語の得意な団体はあるので、高校・一般のように選択できるほうがよい。
- ・ポップスではなく、合唱曲として完成されたもの
- ・数曲から選択
- ・ポップス以外で音楽的な勉強になり、変声期の生徒が無理なく取り組めるもの
- ・無伴奏3分以内、3声、部分4声
- ・審査が平等に行えるような難しすぎない曲
- ・現在の課題曲の中にも中学校が演奏しやすいものもありますが、課題曲をG、M、F 各5曲として選択しやすくしていただければ十分です。
- ・外国語の無伴奏作品など、生徒の合唱に対しての視野が広がる作品
- ・難易度においては考慮は必要。ただし、ポップスのアレンジ作品は避ける。
- ・「伴奏あり」と「伴奏なし」から選べるとよい。

9.【中学校部門】その他、中学校部門についてご意見、ご要望、学校現場でお困りのことなどがございましたら自由にご記入ください。

※回答対象: 中学校部門出演団体

別紙

◎アンケート回答【高等学校部門】

10.【高等学校部門】部門および人数についてのお考えをご記入ください。

※回答対象:高等学校部門出演団体

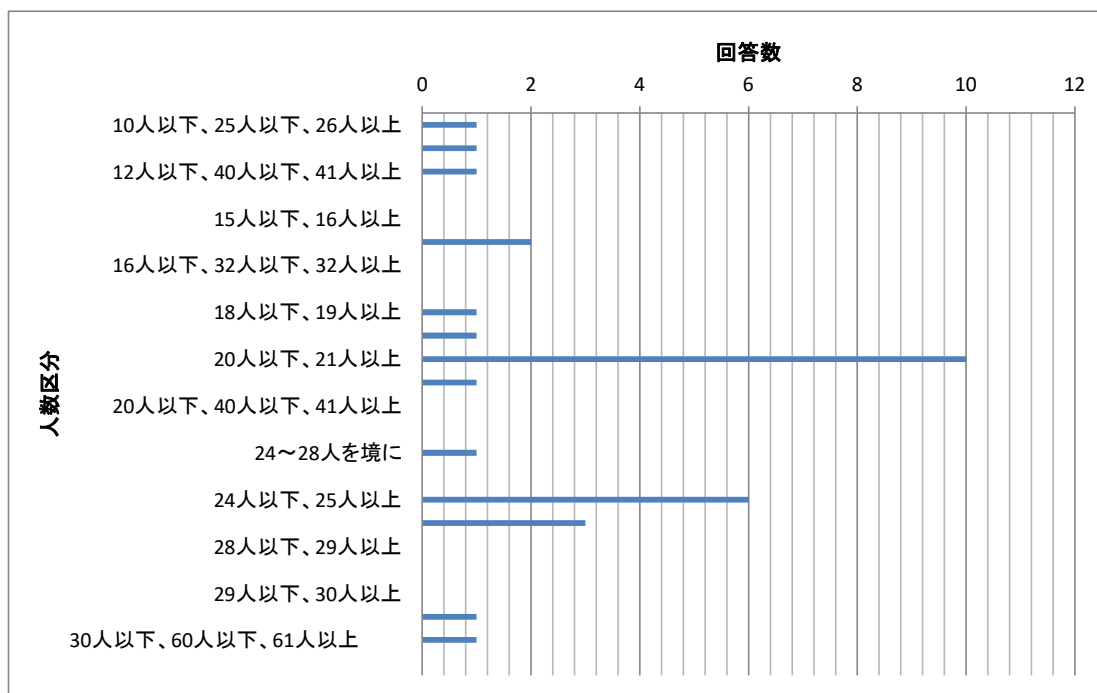
	回答数
現行のままでよい(32名以下、33名以上)	108
人数を変更する	97
その他	7

その他

- ・可能であるならば、もう少し細やかなカテゴライズが理想とは思いますが。
- ・声部で分ける
- ・A部門でメンバーの入れ替えが出来るようにしたい
- ・人数の縛りを無くす。

10-1.【高等学校部門】具体的な人数をご記入ください。

※回答対象:アンケート10「人数を変更する」の回答者



その他

- ・最少人数を廃止する(回答数3)
- ・最少人数を4人(回答数3)
- ・最少人数を6人(回答数4)
- ・最大人数の設定(回答数5)

11.【高等学校部門】演奏時間についてお考えをご記入ください。

※回答対象:高等学校部門出演団体

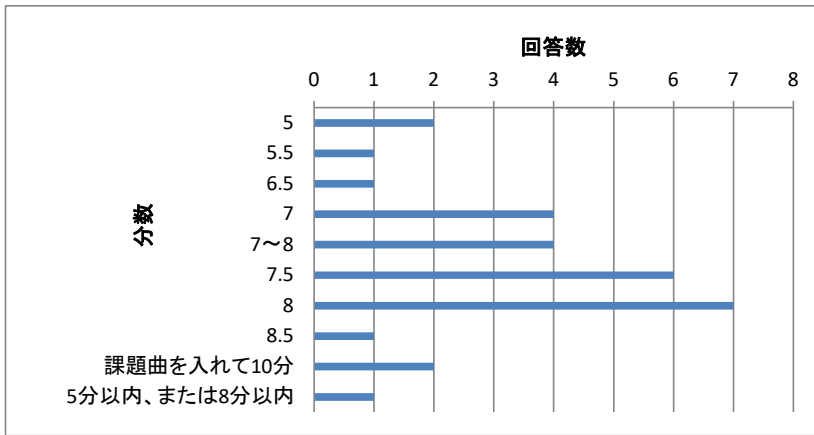
	回答数
現行のままでよい(自由曲が6分30秒)	181
変更する	29
その他	2

その他

- ・各部門に定められている異なる制限時間の根拠が知りたい。Nコンとは時間が異なるため、よくも悪くも同じ曲を演奏しづらい面がある。
- ・程度をつけて+10秒は認める、あるいは、オーバーしたら減点方式など。とにかく一秒でもオーバーしたら即失格は今の時代に合わないです。

11-1.【高等学校部門】具体的な演奏時間をご記入ください。

※回答対象: アンケート11「変更する」の回答者



12.【高等学校】課題曲について

※回答対象: 中学校部門出演団体

	回答数
現行のままでもよい(名曲シリーズから1曲選択)	175
変更する	36
その他	1

その他

- ・名曲シリーズを声部で分けて薄く、安くしてほしい。

12-1.【高等学校部門】どのようなものがよいか、可能であれば具体的にご記入ください

※回答対象: アンケート12「変更する」の回答者

・課題曲不要(複数回答) 練習負担、金額負担 のため

- ・一般と同じでは厳しい学校も多い。もう少し難度が低いものを。
- ・今年男声は全部無伴奏ですが伴奏版もまけてほしい。
- ・課題曲を4曲から選択することは現行通りでよいが、なぜ課題曲に選出したのか分からない時がある(特に日本語曲)。
- ・二部を含む

・少人数でもできるような曲の選曲(複数回答)

- ・現行のものに男声が少ない混声合唱団のために混声3部合唱曲を加えてほしい。
- ・女声の場合、3声曲があると嬉しい。当部の場合、今年には部員の減少で4声部に対応できず、出場を断念した。
- ・少人数で混声四部しかなく、パートの人数が足りないため混声三部のものも欲しい
- ・少人数の高校が増えている中、伴奏付きの課題曲は非常に演奏することが難しい。名曲シリーズからの選択、ということは賛成だが、無伴奏の曲の選択肢を増やしてほしい。もしくは、全曲無伴奏にしてほしい。
- ・現行の4曲のカテゴリと別に、小アンサンブルに適した曲目の設定を望みます。

・吹奏楽コンクールのように、Aは課題曲がなくてもよいのではないかと感じます。少子化やコロナ禍による合唱人口の減少・練習機会の減少により、課題曲を演奏するのが負担になっている団体のための部門として捉えてはいかかでしょうか。合唱界全体の底辺拡大という目的のためにもよいのではないかと思います。

・Nコンのように毎回委嘱作品とすることは今日的かと思えます。

- ・高等学校部門専用の課題曲を設定する
- ・中学校部門と高校部門で合わせて課題曲を設定してはどうか。
- ・無伴奏・日本語歌詞の楽曲が、課題曲の中に複数曲あってほしいです。
- ・有名な曲を選択してほしい。課題曲は必要と思う。
- ・1曲ずつの購入(オンラインDL可)が望ましい

13.【高等学校部門】その他、高等学校部門についてご意見、ご要望、学校現場でお困りのことなどがございましたら自由にご記入ください。

※回答対象: 高等学校部門出演団体

別紙

9. その他、中学校部門についてご意見、ご要望、学校現場でお困りのことなどがございましたら自由にご記入ください。

生徒数減のため音楽教師は1名配置の学校がほとんどである。そのため常設部としてブラスバンド部の顧問を努め、特設部として合唱部を指導している場合が多々ある(本校もそうである)。さらに、昨今の働き方改革等で特設部の存続も難しくなっているのが現状である。

また、上位大会に進むまでには至らないが、歌う楽しさやステージで発表体験をさせたいという団体にとっては、連盟登録料、大会負担金も大きな足かせとなっており、Nコンのみ参加する団体がかなり増えている。

2つの部活動を同じ時期に指導し、大会に臨む指導者の疲弊問題もあり、合同チームの結成を試みたこともあるが、人数規定が入り、合同チームでの大会参加もできない。コンクールである以上、ルールは必要であろう。しかし、今後ますます減っていくであろう連盟加入状況に早急に対策を講じる必要を強く感じる。

【人数について】8人以上という規定を外してほしい。生徒数が減ってきているため、8人の確保が難しいという現状がある。

【日程について】8月の最終日曜に行われているが、もう少し早めてほしい。新学期がその頃すでに始まっているため、練習時間の確保がしづらい。2学期に入ると3年生の練習時間が確保しづらい点もある。

○人数については三部合唱を想定

○演奏時間については課題曲なしを想定

○部活軽視の風潮がある。若い指導者に対する魅力的なセミナーが必要か？

○合唱フェスティバル(子どもフェスティバルの年齢オープン版または東北復興合唱祭)のようなものが数年に一度あればいいと思います。

コロナ禍で合わせの練習ができなかったり、練習時間の確保が難しかったりと、苦労が多かったです。

コロナ禍で歌うこと、人前で歌う場が縮小されてしまい、継続することが大変でした。

今まで大変お世話になりました。

コロナウイルスにより合唱部に入部を希望する生徒不足で悩んでいます。

コロナのため、学校では歌う機会がかなり減っている。部員が集まらない。

コロナの影響もあり、部員数が激減している。

コロナ禍だったので、録音審査にするかどうかの判断がもう少し早い方が良かった。

大会は開催できて、生徒たちは喜んでいました。

コロナ禍での大会実施、心から感謝申し上げます。合唱活動やその他のクラブ活動が大きく制限され、本校も部員数が半減しています。部員や時間の確保に頭を痛めているところですが、大会をぜひ続けてください。この大会は私たちの大きな目標です。

コロナ禍で歌うこともハミングもする事が出来ずに、活動に困っている。

コロナ禍で活動が難しいということもありますが、コンクールを実施していただき、子どもたちの発表の場があることは大変ありがたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

コロナ禍で合唱部に入部希望者が激減した。

コロナ禍で部員の減少、活動に制限がかかることがある。

コロナ禍で部活動ができない状況が最も困っている。

コロナ禍も相まって、有志合唱団の設立が年々難しくなっています。しかし、多くの子どもに合唱の良さを知ってもらうために、頑張っていこうと思います。

どの団体もそうだと思いますが、コロナ禍で思うように活動ができない。

課題曲は負担だと感じる学校もあるのではないかと。参加校が減少しないためにも現行のままでよい。

学校規模が大きなく、人数を集めるのが大変。

学校現場での混声合唱部の維持が難しくなっています。部活動時間が縮小されている中、お昼休み合唱団や助っ人部員での参加をしてきた学校は苦しんでいるのではないのでしょうか。かといって、混声部門がなくなってしまうと、そこに出場したいと思う生徒も少なくなってしまう、文化が途絶えてしまうのでは…という心配もあります。明確な答えや考えはないのですが、何とか混声合唱の文化が途絶えてしまわないように、できることを考えていきたいと思っています。

感染拡大が続いている場合は、録音による審査も参加団体が選択できるようになるとありがたいです。部員本人、またはご家族にリスクが高い方がいらっしゃるため、移動や宿泊を伴う参加が難しいです。限られた練習の成果を出せる機会を少しでも広げていける方法で実施をお願いします。

現状難しいと思いますが、本番だけでもマスクを外しての歌唱ができる日がいつか来てほしいと強く願っています。

合唱への取り組みへの規制が厳しく、部活動が思うように行えないこと。

合唱人口が減り、現在では10人以下で活動しております。現在は運動部に新入生が流れる傾向にあり、悩ましく思っております。

またコロナ禍で、文科省の発信が合唱部や吹奏楽の部員減少に拍車をかけているように感じております。授業でも歌えず、部活すら禁止された合唱部員、吹奏楽部員は輝ける場所を奪われたような悲しい思いをしております。そのような中、運動部はマスクを外しても良いという中で活動をしている、マスクを外して集団で給食も食べる、マスクをしていても大声で休憩時間を過ごす…現場の状況を見てもらえないまま、合唱や吹奏

楽が禁止されるという中学生、教員には理解し難い現状です。

今回、合唱連盟の素早い要望書には部員と共に救われました。合唱は禁止されたままですが、そのように動いてくださる方々がいてくださることに感謝しかありません。本当にありがとうございました。

合唱部が少ないので、人数制限を設けてしまうと参加できる部門が少ないところに集中してしまうので現行で致し方無いと思う。

現在、近距離での合唱は可能となっているが、近距離という具体的な数字や、歌って良い時間を明示してほしい。

制限がある上でできる活動をおこなって行きたいが、どのようにやって良いのか指針を明示してほしい。(ガイドラインも出してもらってはいるが、ガイドライン通りでは今回はダメであった)

合唱部に入部する人数が少なく、少数メンバーでのコンクール参加は、全員が集まらなると練習が進まないなど大変なことも多い。

今年度も広い会場で他の学校の演奏が聴ける貴重なコンクールでの演奏の機会をいただき有難うございました。来年度も対策をとりながらも是非リアル開催の形で子供たちに演奏の機会をお願いします。

感染が拡大してくると、まんぼうの飲食店のように学校現場においては”合唱活動”の制限と言われます。他教科の授業では大きな声で会話のリピートをされている中、違和感を覚えながら大変苦勞して授業をしています。校内の合唱コンクールもなくなり、だんだん歌うことの楽しさを教える機会が減り、子供たちの情操教育や文化を大切にしたい気持ちがどこかに置き去りになりそうな現状です。現場の教師も合唱で心動かさせる機会もなくなってしまうのでしょうか。

何とか歌い続けることで合唱の燈を消さないように頑張ろうと思います。また皆様のお力をお貸ください。今後とも宜しくお願いします。

困ったことは、特にありません。

本校は、特設合唱部なので、全員他の部活と兼ねているため、昼休み週に3日、15分ずつしか練習できません。それでも楽しみに集まる生徒と共に歌っています。似たような状況の中でも、全日本合唱コンクールに参加する学校はとて多いのです。

発表の場、鑑賞の場、学び合いの場として、全日本合唱コンクールは、最良の機会だと思っています。審査員の先生方の講評も、あたたかく具体的に、課題解決に向けたアドバイスなどお言葉をいただけるので、皆の励みになっています。

これからも、参加を続けていきたいです。

混声合唱が本当に少なくなり、少人数での合唱が増えている。課題曲を設定してNHKとの違いを出した方が良い。

柔道の大会の廃止のニュースやそれに対する意見を知り、合唱も部活の(顧問)の在り方次第で子どもに与える影響について、改めて振り返ることが大切なのではと感じています。連盟がそもそも大会形式を小中学校で継続する理由を、改めて発信してもらえたらと思います(できれば、生徒も、教師も、保護者もひっくるめてたまに考えられたら良いかもしれませんが…)。

←なぜなら、私自身が子どもに説明できないな…と思ったので…。勤務校では、数年かけて合唱コンクールが合唱発表会へとシフトし、生徒も教員も、おそらくコンクール形式には戻らない感覚になりました。やりがいや満足感や喜び、連帯感は十分感じられるということがわかったからです。音楽の楽しさを味わい、人生を豊かにすることを共に身につけて行きたい一方で、その音楽で競争させることで、私たちが子どもたちとどう一緒にいけるのか、私自身が考えています。

少子化の上、コロナ禍で不安や活動制限があり、部員確保が難しくなっています。講習会を企画しても中止せざるを得ない状況で、合唱人口が減ってきていることを危惧しています。

少子化やコロナ禍の影響で、部員が集まりません。現行の規定だと来年度は参加できないかもしれません。ぜひ、人数についての規定は見直していただければと思います。

少子化やコロナ対応、今後の外部指導者などの導入なども考えると、部活動の重要な役割を感じながらも縮小化せざるを得ない。難しい問題です。

少子化や習い事の多極化等で部員数は減り、参加校も減っています。また、昔に比べて働き方改革で練習時間も減っています。参加しやすく負担にならないような工夫が必要です。多くの学校はNHKコンクールとダブルで参加していると思うので、演奏時間を減らし、自由曲を一曲ですむようにさせるなど、条件を似せるとよいのではないのでしょうか。

常設の部活ではないので、人を集める、時間を確保する事が大変。更にコロナ禍で練習がストップしており、アンサンブルに出られませんでした。

審査員の質 何度も「とんでも審査」をしている審査員が、未だ続けられていることが謎

新型コロナウイルス感染症対策にご配慮いただきながらの運営、本当にありがとうございます。

人数の違いによる審査の差があるように感じるため、人数の上限を設定した部門を新設するなどし、平等な審査をお願いしたい。

人数の減少に伴い、選曲に苦勞しています。人数や難易度別におすすめの曲を紹介していただけるようなサイトや冊子があると良いのになと思います。

人数制限をなくしてほしいです。発表の場がなくなります

全国大会の開催場所は現在支部持ち回りになっていますが、東京、大阪など集まりやすく交通の便がよい所がよいのではないかと思います。コンクールを観覧したくても遠すぎて行けないことが多く残念です。

全国大会中学混声部門は朝が早く、練習場所を確保することが困難です。開始時刻を遅らせるか、連盟で早くから声出しができる場所を確保するなど工夫して頂けないでしょうか。中学混声は、練習、経費など全てにおいて厳しく、存続すること自体が難しくなっています。

夏休みが短くなっているため授業が始まってからコンクールがあります。夏休み中にコンクールが終わっていたらありがたいです。

地区コンクールや全国コンクールをオンデマンド配信や映画館配信を今後も継続していただきたい。素晴らしい演奏をできるだけ聞きたいです。

中学校は男女共学であり、男子の歌唱能力を高める必要があると思う。なのに、混声合唱を応援してくださる審査でなく、混声合唱に厳しいから年々参加校減るし、全国大会の混声合唱出場も少ないのが現状。合唱連盟自体が中学校混声合唱を大事にする姿勢がほしい。また、少子化で合同合唱をしていたが、昨年から急に8人以上いる学校同士組むのはダメ…と制限されてますますコンクールに出場しづらくなった。

合唱を続けていくのが難しくなった今の世の中の現状をもっと理解してもらいたい。このままでは混声合唱をしていくメリットが感じられない。

同一校が、混声、男声、女声等で、別団体として加入し、複数のチームで出場するのは、上位大会への出場枠を独占するだけでなく、大会の時間をいらずに長引かせる元である。形式的には可能であるが、他校のことを全く考えていない行為で、良識を疑う。やめてもらいたい。

年会費が高額である。コンクール参加料も高額である。

年々所属人数が減っています。8人集めなければいけない状態の学校もあるのではないかと思います。少ない人数でもアンサンブルできれば。コロナ禍で色々な、体験ができなくなっていますので、少ない人数でも参加できるようにお願いしたいです。

部員が集まらないこと、練習時間が確保できないこと(コロナ禍ということもあり)に大変困っています。コンクールを目標に励みにさせたいのですが、肝心の部員が確保できず、十分な練習ができません。

部員が少なく活動が厳しくなっているのが現状です。

部員の減少により、合唱部の存続が危ぶまれる学校が増えている。少人数でもコンクールに参加できる人数規定ができるとありがたいです。

部員の人数が少なくなってきたり出場できる人数制限があると出場出来なくなる可能性も出てくる。2、3人でも出場できるようになると良い部活動として人数が集まらない。現在のコロナ禍で歌えない期間が増えて、これから生徒や新入生が部員として集まって練習できるか、不安である。

部門変更でなく、選考の仕方を見直してほしい。現在中学混声から必ず一校選ぶため、混声の一校が賞に関係なく必ず選ばれる。わずかな男子を入れて、故意に選ばれようとしていると思われる。最初から混声から一つ、同声から一つ、共通で一つしか選ばれないのでなく、コンクールは歌の技術を競うのであって、混声同声関係なく選んでほしい。

北海道支部は各地区連盟の持ち回りで開催されていますが、土地柄移動距離が大変長く、時間的にも前後泊に伴う宿泊費やバス代の費用的にも、他の支部の県大会で集まる以上の負担がかかります。実際、地元や日帰りができそうな場所以外は参加が難しくなる学校もあります。

コロナ感染下では、さらにそれが助長されており、連盟に所属する合唱部そのものが減少しています。感染が今すぐなくなることを考えると、音源審査の有様を、一過性のものでなく、きちんと位置付けておく必要があると思います。

練習もままならない昨今、コンクールも無観客で行われ、マスクをしたままでのステージ演奏することの虚無感を痛感します。また、生徒が歌う機会もどんどん奪われており、今後のことを考えると継続すること自体が危ぶまれます。これからも、大変ですが、よろしく願い申し上げます。

練習環境が学校ごとに違う、専門でない職員が顧問をしている現状に試行錯誤しています。コンクールの講評などで、今後練習で取り入れられるお話などもきかせて頂けるとありがたいです。

すそ野を広げる役割を担っているNHK全国学校音楽コンクールとは一線を画して、世界に目を向けることのできるような合唱コンクールの役割を担ってほしい

コンクール中止をなるべく避けて欲しい。

また録音審査(県大会、支部大会)をする場合は、全国一律にすべき。

今回はこういったアンケートを実施していただきありがとうございます。

現状コロナウィルスで活動が大きく制限されています。NHKさんのコンクールとの兼ね合いもありますので、中学生の課題曲の設定はかなり厳しいように思います。曲を複数練習する時間がありませんし、全日本のコンクールまで課題曲が課されてしてしまうと、コンクールに参加できなくなる学校が増え、参加団体がさらに減少すると思います。

また、ここ数年少子化による学校数の減少、部活動の縮小、そして拍車をかけるようにコロナウィルスの拡大に伴い、参加校不足で支部の全国大会の推薦枠を維持できず、減少している状況があります。これにより、なんとか取り組んでいる学校でも生徒のモチベーションの維持が難しく感じています。推薦枠が減少すると結局全国大会に出場できる学校が特定の学校にほとんど固定されてしまい、大会参加校数がさらに減少する悪循環に陥るのではないかと考えています。

もう少し、支部大会や全国大会への門戸が広がっても良いのかな、とも思います。

具体的には、各支部現在の基準の+1~2枠くらいはあっても良いのではないかと思います。今後、公立や国立の中学校はますます活動が厳しくなります。参加団体は減ることはあっても増えることは難しいです。「活動できる学校」と、「活動できない学校」の差はどんどん開いていくと肌で感じています。

頑張れば上位大会で演奏できる、他府県の合唱を聴くことができるという思いで活動させてあげたいですし、「部活動の制限や、コロナを無視して活動できる学校が良い結果を出せるのだ」という感覚を子供たちには持たせたくないなと思っています。

参加校数の減少で減ってしまうその1枠に、活動が十分にできない中頑張っている学校の希望があります。この辺はすぐにというわけではない

ですが、10年後を見通した場合、1つのあり方かとは思いますが、勝手なお願いですが、この先のコンクールのあり方の1つとしてご検討いただけますと幸いです。

少人数、コロナによるマスク着用での歌唱など合唱部の活動としては厳しい状況が続いています。

中高一貫の中学生は、中学にも高校にも出られるようにしてほしい。昨年からどちらか片方のみになりました。

13. その他、高等学校部門についてご意見、ご要望、学校現場でお困りのことなどがございましたら自由にご記入ください。

「8名以上」の人数規定を見直してください。8名未満では出場することが出来ない状況は、今後の合唱界に影響が出ると思います。

●中高一貫校でなくても、中高合同で高校の部に出場できるようにしてほしい。(過疎化が進む地域では、人数の確保がかなり困難になってきている。)

●都道府県によって異なると思うが、Nコンが8月10日辺りにあり、全日本が8月20日前後で実施されている。2学期の始業式も8月20日前後にあり、生徒・教員ともに夏休みを取りづらいスケジュールで活動している。顧問の合唱への熱意頼みでは続かない部分も出てくるのではないかと思う。

早くコロナが収まり、のびのびと活動したい。

コンクールは活動の一つ。コンクールで成長できるのは嬉しいことです。

少ない人数でも参加できるようにしてほしい(現行の8人以上から6人以上に変更など、検討していただけるとありがたいです)

12. の質問でも記入しましたが、現行の部門編成では、少人数の合唱部の参加はとても厳しい状況だと思います。本校は混声ですが、審査対象の8人に満たないため、他の部を引退した3年生を助っ人として参加させ、何とかエントリーしています。このような状況なので、課題曲はとても負担になっています。少人数のためどうしても編成に偏りが出てしまい、初心者の方の男声で1パートを歌っています。将来的には、4人~10人前後でもエントリーでき、課題曲を課さない少人数部門のようなものあれば、本校のような10人以下の合唱部は大会参加の機会を得ることができるのではないかと思います。合唱が好きで、毎日一生懸命部活に取り組んでいる生徒が活躍できる場を1つでも増やせたらと思います。A32名以下、B33名以上という人数基準は大きすぎ、現状に合っていないと感じます。

A部門も、下限を8名ではなく4名にすることも検討いただきたい

B部門で何らかの理由でエントリー時から人数が減って32名以下になっても、救済措置を緩やかにしてほしい

G4(朝日作曲賞)の参考音源をWeb上にあげてほしい

NHKコンクールと比べ、少人数の合唱部の出場がしやすいと感じています。しかし、現行の人数では、その効果が中途半端で、結局より多い人数の団体が有利になっている傾向があると思います。また、実際には部員が多いのに、力のある部員だけで編成する学校もあり、部員数に応じた規定を加えるのも一考かと思われます。これらは吹奏楽連盟のコンクールに長年慣れてきた私の個人的な感想です。また、吹奏楽コンクールでは、審査員の先生方の各団体向けの講評がいただけるのですが、合唱連盟はありません。また、審査員になる方が、出演校の指導に行かれるケースもあり、講評用紙がないことで、一層疑惑を持ってしまふ向きもあると思います。吹奏楽コンクールでは、審査結果を可能な限り公開しており、その結果による悪影響もあるかもしれませんが、長年継続することで、審査の質の向上にもつながり、問題は減っていると思います。何より、初めて出場する学校にとっては、講師を招へいすることも難しく、結果だけ突き付けられる「冷たい」印象を持ちました。コンクールは勝つことしか求められず、音楽の、合唱の良さを体験するという私としては重要視している部分が得にくいのが正直な印象です。教育現場でも評価基準を生徒に事前に通告する時代になってきています。現状は時代の変化に対応できていないと思われます。

アンサンブル部門を4人から出場可能にほしいです。

このままコロナ禍が続く場合、距離を保って歌うためには、人数の制限が考えられるのではないだろうか。マスクを使用しながら歌うにせよ、33人以上参加の場合の配置が厳しいのではないかと危惧している。

コロナウイルス蔓延のため、合唱活動を敬遠する生徒が多い。さらに部員の保護者の中でなかなか理解を得られず、生徒が出席することを止められて、部活動に参加できない状況である。

コロナで部員数が減り、コンクール出場への最低人数(8名)を満たすことができず、昨年度は参加することができませんでした。人数を見直すことはできないでしょうか

コロナの影響で新入部員不足、また活動制限のため練習不足で、演奏の完成度が上がらない

コロナの影響や少子化の影響で合唱部の人数が減っている。次々年度は8名集まるか心配である。

コロナ下の学校現場では県によって対応が違うので、コンクールでは不平等となるケースもあったとは思いますが、開催しないよりは圧倒的にありがたいと思いますので、今年度も開催していただいたことに心より感謝しております。「飛沫」というワードによって、合唱には大きな逆風が吹いたこの2年間でしたが、そんな中でも様々な工夫をしてコンクール等、行事の開催にご尽力くださり、本当にありがとうございました。計画しても、すべて中止など、報われないお仕事をなさった理事さん、役員さんが本当にたくさんいらっしゃったことと思います。言葉に尽くせぬ感

謝の気持ちでいっぱいです。

コンクールの在り方には様々なご意見もあるとは思いますが、現在の状況に問題点は感じていません。強いて言うならば、ヴォーカルアンサンブルコンテストが全日本合唱連盟の行事として開催していただけるようになれば、公式行事として県や学校に認めていただけるため、旅費や参加費の補助も出るので、そうならいいなあとは思っております。現在は、関東ヴォーカルアンサンブルコンテストも全国大会につながる大会ではない、という理由で、公式大会として認められず、参加費、旅費の補助も出ない、というルールに乗る形となっています。

コロナ禍でもあり、人数確保が難しい状況

コロナ禍で生徒を危険にさらすことはできないので、県大会レベルでも関東などの地区大会レベルでも、最初から録音審査に統一してほしい
コロナ禍で部員が集まらなくて、コンクールに出ることができなかつたのが残念です。

コロナ禍で部員が大幅に減りました。オンラインで合唱指揮者・作曲家の諸先生方のレッスンを受講するなど、メンバーに刺激があればと望んでいます。

コロナ禍において、部員数の減少が顕著になっている。このままでは休部になりうる。

コロナ禍において、練習できないまま上位大会等が起り得ている現状の中で、音源審査などに切り替える、状況によっては大会の中止なども大会運営側で柔軟に判断していただけるとありがたいです。蔓延防止や緊急事態宣言下において、部活動ができていない状況下での生演奏による実施は、生徒の健康を守らなければ行けない立場の顧問としては、非常に苦しいです。(学校判断で棄権等をすればよいのですが、大会が実施されている以上、判断が難しくなります。)

コロナ禍により活動の著しい制約があり練習時間が激減しております。部員もコンクール参加最低人数を割ってしまいました。

コンクール・アンコン共にこのコロナ禍での実施は難しいと感じています。実施の可否・方法について社会情勢をくみ取った十分な検討も必要ですが、可能な限り早い決断・連絡を求めます。現場に混乱が起きないようにと配慮してください。

コンクールとは離れますが…年々合唱部に興味のある生徒が減っています。授業の中で合唱を行う分には楽しそうですが、部活に入るまでには至りません。傾向としてダンスや軽音楽などの人気が高まっており合唱部はクラシカルなイメージが強く敷居が高いようです。ピアノを習う子供も減り、クラシック音楽よりもサブスクミュージックの人気が現在は高いように感じます。乳幼児を育てる保護者世代に合唱連盟の存在をより知っていただき層を厚くできたらいいと思います。

コンクールの開催時期が遅いため、高3部員の参加が難しくなっている。もう少し早い時期の開催を希望する。

コンクール中止をなるべく避けて欲しい。録音審査(県大会支部大会)をする場合は、全国一律にすべき。

演奏人数の下限をギリギリ混声合唱を行える4名まで下げて頂けたらと思います。

課題曲と自由曲の採点比率は1:1となっているが、明らかに自由曲の方が演奏時間も長曲のウェイトが違うので、バラエティに富む自由曲の方で大きな差がつきやすいと考えるのが自然である。それならば全部で10分以内とかにして、逆にもっと自由に制限時間を使えるようにしてもらったほうが、各団体のやりたいことがやれるのではないかと思う。

課題曲について。他の曲は11月に発表するので楽譜を取り寄せて練習できるが、公募は3月まで待たねばならないのは不公平だと思います。

課題曲に合わせて自由曲を選びたい団は多いと思うので、同時に楽譜が見れるようにして欲しい。

課題曲について:少人数でも歌える曲を入れてほしい ピアニストがいないため、アカペラの曲を増やしてほしい

課題曲のハードルが高い。中学と同じ課題曲なしにするか、大学・一般よりはもう少し平易な課題曲集を設定してほしい。

学級減に伴う生徒数の減少で、部員数を確保することが困難になってきました。全日本の8人以上の規定も毎年苦慮しております。出場最低人数をもう少し引き下げるなどできないものなのかと最近では思うこともございます。

学校全体の生徒数減少で部員も減少しています。今後、単独でコンクールに参加できなくなる可能性があります。また、ハーモニー購入の負担が大きいです。

活動時間の確保、および指導時間の減少。

感染力の強いオミクロン株に置き換わってから、より少人数による練習が求められ、他クラブ同様、日々の練習場所、練習部屋が無い状況が続いています。音楽部内でも陽性者が出ており、生徒達は大会に出場したい気持ちと大会が開催されるが故に、感染リスクを抱えながら、他のクラブや家族の目を気にしながら練習を続けていく葛藤があるようです。

幸いな事に学校も保護者も部活動には寛容な姿勢ですが、昨年よりも今年の方が陽性者や濃厚接触者が増加しているため、生徒達の間で合唱に対する不安が日々、広がっているように感じます。

規定人数の下限が8人のままでは、この先も出場できない可能性が高い。合同チームでの出場を何度か試みたが、演奏クオリティ向上の面で限界がある。毎日全員で練習できないため。

県によるかと思いますが、1校あたりの部員数が非常に少なくなっているため、Aグループの学校数が多くなっています。それに伴って賞や、県代表の選出の数も、アンバランスになっているため、調整していただきたいと考えています。

県大会でも、支部大会でもA部門とB部門の審査は同じですか？別にしてはいますか？A部門から、何校関東に行けるのかなど、Aと、Bの代表の内訳をはっきりしてほしい。

メンバーの入れ替えをNHKコンクール同様可能にしてほしい。

高2の11月に引退しなければならず、活動期間が大変短いこと。

高校は全国的にも部員がどこも減っている状況ですので、AとBの境である「32」の、その人数自体を下げることを検討してもよいかと思えます。特にBの上限は、コロナ禍でぜひ検討してもらいたいです。保護者の了承を得ているといっても、例えば全国や関東に出るために頑張るお子さんの姿を見たら、Noとは言いつらい状況かなど。参加する生徒の安全を守るためにも、ぜひとも現行レギュレーションの再考をご検討いただけますと幸いです。

高体連が6月なのにに対し、高3を9月まで活動をさせることは、校内的に厳しい。

高等学校は学校による学力差が大きく影響すると感じている。高校生としての標準的な学力を備えている生徒、それ以上の生徒がいる一方で、アルファベットの読み書きもできない生徒たちで構成される合唱部もある。中学生は地域による差があると思うが、できる子ができない子をカバーするという構図が考えられる。高校ではそれが難しい現実があり、日本語の楽曲はできるが外国語曲は言葉の意味がわからないことはもちろん、言葉の読み方、発音がわからないことで音楽をするに至らないこともある。しかし、それでも合唱が好きです、歌が好きですという思いを持って部活に参加してくれる生徒たちがいて、その子たちになんとか達成感や合唱の素晴らしさを体験する機会を与えたいという思いで日々指導している。

とりとめのないことを書いてしまったが、高校部門は、今よりもさらに、生徒たち一人ひとりに合唱の楽しさと素晴らしさを体験させられるようなものになってほしいと考える。

合唱については専門知識がないのでよくわかりません。

合唱を一律に「行わないで」という文科省に苦しみ続けられています。「行わないで」ではなく「こうすれば行ってよい」という指針を出すべきであり、歌が好きな人はストレスが溜まり、あまり得意でない人はますます歌うことから遠ざかってしまいます。「歌唱時の飛沫飛散実験」を東京芸術大学や国立感染研究所などが繰り返し行って文科省にどンドン提言してほしいです。歌わない学生生活は不自然ですし、教育内容がとても乏しいものになっています。感性が豊かな人がますます育ちにくい状況です。

合唱人口の減少により、最低人数の6名すら集めることができない状況が続いていますので、他校との合同参加の規定3校以内という部分を外してほしい

合唱団の人数と合唱団が減少している現状を踏まえて、各支部から全国大会への出場団体数を見直してほしい。

今年度の地区大会では、本番ステージでのマスク着用は任意ということでした。その時の新型コロナの感染状況がそれぞれの地区で差があることも理解したうえで、まずは地区大会を同じ条件にするためにも地区連盟の方で統一した方針を示していただくと良いと思います。

混声ですが男子の入部が少なく混声四部をなかなか組めません。かと言って混声三部の良い曲がありません。

最近のコンクールやコンテストの録音審査は、録音する場所や機器の違いで大きく差が出ます。

また、やむなく棄権する学校もあり、コロナ禍でコンクールを行うことに無理があると感じています。

昨今の音楽系部活動の中心はコンクールで、競い合う音楽ばかりであることに、生徒共々苦しさを感じている。全国の常連校の生徒の中には、大学では合唱はやりたくない、という生徒もいるという話を聞き、我々教員も休日返上で働き続けて疲れている。合唱連盟の役割や目的は、よりよい合唱活動の在り方について、今一度示していただきたい。

三重県では、中学校で合唱部があるところが少なく、このコロナ禍もあり、高校で合唱をする生徒が少なくなっています。

少ない人数ながらも質の高い演奏を目指していくというのが大前提ですが、部活動として、小・中学校からの活動の土壌づくりも必要であると感じています。

参加団体数に応じた支部大会や全国大会への選出があるべきだと思います。

コロナ禍で、練習場所も苦労していますが、行事や説明会のアトラクション等の露出が減り、部員が減り、そのため逆に音楽室で練習ができています。

合唱文化の衰退は避けたいと頑張っています。ホール等を活用し、ソーシャルディスタンスは保つことができました。が、頻繁に練習禁止となり、モチベーションが続きません。

合唱は対策を徹底すれば、特に指導が行き届く部活動はリスクは低い事をアピールし、活動しやすくしてほしいと思います。

合唱連盟から文部科学省への訴えも必要と思います。

行事や部活動で生徒の心が育ちます。勉強だけでは人は育ちません。

本校はそれでも管理職が理解を示して活動を認めてくれている方だと思いますが、ただコロナが終わればと待つのではなく合唱界も何かを前進させたいです。

勿論、強い意志でコンクールを実施してくださっている皆様には感謝しかありませんが、やったださる以上必ず参加します。

実際人数の少ない団体は上への可能性がはなからないので、出場する気にならない

出演人数の下限があるのはつらい。少人数でも頑張っているところがあるので、下限はなくてもよいと思う。せめて各パート1人いればいいようにしてはどうでしょう？

少子化がますます進行して、そもそも入学してくる生徒の母数が減ってきています。こちらの地域は顕著に表れています。それでも大会に出場したくて頑張っている生徒もいるので、人数に関する規定を撤廃する方向で動いてくださることを願います。

少子化により部員数の確保が難しい・働き方改革により部活動時間の確保が難しい

少子化に加え、コロナ禍で生徒数、合唱部員数の減少が進んでいる。いつも特定の大人数の常連校が目されるが、地道に活動している少人数の参加校も評価しなければ廃部が進み、合唱文化そのものが衰退してしまう。

少子化に伴って部員の減少。コロナ禍によって合唱活動が活動困難に。

少人数になりコンクールに参加ができない。

混声は数年来できていない。同声合唱の選択肢が欲しい

少人数や初心者が多い団体にとっては、課題曲が難しすぎる。パート内 div は出来るだけない方がよい。学校名で審査されてないかと「？」がつく時がある。学校名をアナウンスしないでプラカードのみで知らせる等、現状でも出来る工夫はあると思う。全国大会出場団体が固定化されている傾向があるので、全国大会で金賞を受賞したら次年度は招待演奏にする等、出来るだけ多くの団体に出場するチャンス・可能性を与えてほしい。全国大会・高校の部を日曜に出来ないでしょうか？

少人数化に加え、マスク着用での歌唱活動が続いているため、まともに活動ができていない状況でこのまま続けていく価値があるのかどうか考えてしまうほどです。

新型コロナウイルス感染症により、部員数の減少が悩みの種である。しかし、コンクールに参加するとなるとある程度の人数は必要になるし、現行の8名以上で致し方ないかと思う。本校は幸い今のところ毎年コンクールに参加できているが、今後人数が大幅に減っても可能な範囲で参加させていただきたいし、その時の集まったメンバーでできることをやっていきたい。

人数がどんどん減っていているのが気がかりです。

人数が減少し、2~3年後には単独での大会参加が難しいことが予想されます。

人数が集まりません。練習時間が取れません。コロナ感染対策で目の敵にされてつらいです。

人数が少なく、困っている。8名に満たない場合は出場できない。

人数の多い団体が有利で、少ない団体がやはり不利な審査かと思えます。Aでも30人集めるのは大変な学校もたくさんあります。自身が現役のころに比べれば、子どもたちの人数も減っていて、合唱部関係に所属する生徒数も格段に減っています。四半世紀前と同じ要領で今後もやっていくのは難しいと感じます。伝統校でもその傾向が見られると思えます。人数が足りないために、他の部活動に所属する生徒の力を借りてステージに乗っている学校さんもあります。

末端のたくさんの歌いたい生徒に活躍の場と、頑張ろうという環境、上位や上につながる大会を目指すさなくとも喜びを持てる活動の場、今は社会も生徒も多様化してきているので、さまざまな取り組み、交流の機会があればと切に願います。

人数は、現行のままでも良いと思いますが、Aグループは30人でも良いかと思いました。全国大会で、32人そろっていた団体はほとんどなかったように思います。

今はコロナの対応で、練習すること自体が難しく、合唱人口が減ってきているので、少人数の団体が増えるのではないのでしょうか。今は耐える時だと思います。

生徒数減少により、合唱演奏の難しさは年々高まっている。さらに、感染症対策下における県教委の指導方針では、感染リスクの高い学習活動として「向かい合った近い距離での”合唱””発声練習”」と明記されており、合唱練習自体が感染リスクの高い活動として敬遠される傾向にあると感じる。その懸念を払拭できるまでの教育効果が合唱にあることを示す、多様な合唱の在り方を検討できる場がほしいと考える。

全国大会支部大会がA部門B部門分けて審査であるなら県大会もA部門B部門分けて、中学校部門の混声部門同声部門同様にして審査をすべきと考えます。

全国的に小規模化していることから、課題曲は3部合唱と4部以上を併用する。無伴奏作品を多くする。

男声部員の減少

中学と同じように、現在活動が非常に厳しいです。

高校生なので、中学生よりは自分たちで工夫はできますが限界もあります。

一番厳しいのは、コロナ禍、文科省や学校からの通達で合唱や部活が「悪者」になっている風潮です。学校でも合唱への風当たりはとても強く、生徒たちも疲弊しています。部員数も減少しており、新入生の確保も難しいです。

そういった意味で先日、全日本合唱連盟から文科省への意見を出していただき、すごく助かりました。

コロナウイルスの感染拡大で、大変な中ではありますが「合唱」の価値と安全性を組織として、今後も発信していただけますと本当に助かります。どうぞよろしく願いいたします。

中学校もそうだが、部活動の在り方、人数がこれまでとは大きく変わってきている。特に編成については検討をお願いしたい。また、部活動が地域の活動に移行している県もあり、同一校種のメンバーにより構成されている地域のチームはどの部門に属すべきなのかは今後検討していく必要があるかもしれない(中学・高校部門を撤廃し、年齢別にカテゴリー分けするなど)。

中学校部門における意見と同じです。

中学校部門のところで記入したように、運動部の地域団体参加が認められるようになると、合唱連盟についても何らかの対応が必要になるかも…。そうすると、中学校部門に続いて対応が必要になる可能性が出てくると思います。

東京だけが他県と比較しても激戦なので、全国枠を増やして欲しい。

働き方改革 少子化で部活動成立が難しい

働き方改革+仕事量が増えているため、活動時間が削られています。

日頃よりお世話になっております。この2年、コロナ禍で合唱活動が思うようにできず、また合唱自体が敬遠されるような風潮もあり、部員確保に苦心しております。早くコロナがおさまり、思い切り歌えるようになるのを待つばかりです。

部員が少ない8人集まらないとコンクールに出られないのでコロナ禍では強豪校以外実質参加不可能そうすると上位大会推薦団体の数も減る良い事は何も無いA部門を20人以下くらいに下げたい地方の部活では32人といえど大人数にあたるもう少し現実的なルールに改変して欲しい

部員の減少。露骨ではないが、「合唱は危険」という雰囲気が生徒の間感じられる。コロナ禍でも私立の強豪校はコンスタントに活動できるので実力差は開く一方で、公立校は全く肩身の狭い思いをしている。

部員数が少ないので出場が難しくなっている

部員数減により、出場最低人数を見直し、4人以上としてほしい。課題曲で、アカペラ3声の選択肢を増やしてほしい。

部員数減少やコロナの影響による舞台上でのディスタンスの確保、マスク着用での歌唱など

部門区分が人数のみで解れているが、中学のように声部で分けてほしい。女声・男声・混声と別物に思える。男声合唱もモチベーションが上がる為にも男声区分があった方が良く思う。また人によっても部門を変え、①30人 ②30人~60人 ③60人以上(小編成・中編成・大編成)と分ける方が良く思うが、全部で6部門となる。現行は編成が異なるものを審査となっているが、声部・人数で分け、部門が同じ状態での評価としてほしい。東京都の春こんなどは部門がきっちり分かれているため、平等性も感じられまた分かりやすい。

本校は、コンクールへの参加によって、生徒が大きく成長する姿を多く見て参りました。目標をもってコンクールに参加し、努力する機会をこれまで得られていることは大変ありがたいことと感謝しております。その中で、一つ、できればご検討いただきたいことがございます。

参加規定の出場に係る条件 第3条2(3)の合同合唱3校以内、また1校を除いて8名未満という条件について改めてお考えいただけるとありがたいです。本県のように合唱人数が少ない県では各校の合同によって生徒が合唱を楽しみ感じ、コンクールに参加する機会をつくるのが合唱人口を増やす第一歩と考えます。また、8名以上であれば参加規定の人数を超えていますが、ぎりぎりその人数でのコンクールへの参加は、正直、選曲等の面でも支部大会で上位を目指せるという気持ちになりにくく感じています。人数は結果に関係ないとは思いますが、高校A部門で実際に32人の団体と比較した際に同じような条件で舞台にのるのはハードルが高いと感じています。さまざまな面で顧問の力次第というところはもちろん理解しております。また、他県の状況等も把握しないままに本県の状況のみをふまえたものであり、勝手なお願いではございますが、改めてご検討いただけるとありがたく思います。

本校を含めて、少人数の団体も少なくなく、参加人数の下限設定はやはり必要なのでしょうか。

毎年十数名しか集まりませんが、コンクールに出場に向けて励んでおります。20名以下の少ない人部門があると、生徒の意欲も向上します。ご検討直しくお願い致します。

名曲シリーズの楽曲の難易度が高いと感じます。